



ザ・レッドクロス みずうみ

日本赤十字社島根県支部 みずうみ赤十字奉仕団

野の花にも辺りの景色にも春の息吹を感じる季節になりました。自然は折々に同じ姿を見せてくれるのに、私たちの生活は一年前のコロナ発生から一変しました。

毎日報道される感染状況に不安を覚え、行動を制限してきました。昼夜を問わず、献身的に働かされている医療従事者の方に敬意を払いながらも私達は病院ボランティアを休止しています。

他のみずうみの活動も自粛せざるを得ませんでした。そんな状況でも振り返って見ますと予定した行事は回数を減らし、規模も縮小し一つ一つ工夫しながら半分は実行出来たことは幸いでした。

松徳学院高校の先生・生徒さんにもみずうみ奉仕団にご協力いただきました。また令和2年度から支部でご勤務の福田さんは持ち前の力を発揮されて、みずうみのすべての活動に手を貸してくださいました。

松徳学院高校の校長先生と福田さんにはザ・レッドクロスにご寄稿もいただきました。

(松本)

地球市民としての ユネスコスクール活動

松徳学院中学校高等学校

校長 梶田 めぐみ

松徳学院中学校高等学校は、世界に一万校以上のネットワークを持つユネスコスクールへの加盟を目指して、意欲的に活動しています。

活動テーマは「水の保全とその賢明で持続的な活用」文化としての水の継承」です。地域の方々と協力し合い、宍道湖や宍道湖流入・流出河川、また中海の自然を守るために水草や藻を採取し、それを肥料にして野菜を育てています。

また河川敷のゴミ拾いなどを通して自治会の方々と触れ合う機会も増えています。この地球の未来を担うのは自分たちだ、ということを生徒たちが意識し始めているのを感じています。

今後はこの取り組みを、松徳学院の海外姉妹校と力を合わせ、フイリピンなどでも実践しているかと思っ



みずうみ赤十字奉仕団の 皆様と出会う

福田 健也

みずうみ赤十字奉仕団の皆様には日頃より大変お世話になっております。

私自身、島根県支部に異動となり奉仕団を担当させていただくようになり一年が過ぎようとしております。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、生活が一変した二年でした。支部にとっても例年の行事が中止やオンラインでの実施となるなど、異例の一年となりました。

奉仕団の皆様におかれましても、年度当初より活動の制限がかかり病院や乳児院において日々行っていた活動も未だに停止したままとなっております。

そうした制限がかかる中においても、皆様方とできる範囲内で活動をさせていただいていることに大変感謝しております。

こうして皆様と出会い、一緒に活動させていただけることも何かのご縁だと思っておりますので、このご縁を大切に日々の業務に取り組んでまいります。何かございましたらお気軽に支部までご連絡ください。

まだまだ、力不足で皆様方にはご迷惑をおかけすることも多々あるうかとは思いますが、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

高尾小学校防災スクール

皆さんは奥出雲町立高尾小学校がご記憶にありますか。そうです、令和元年11月に「落語」でみずうみ奉仕団を楽しませてくれたあの小学校です。

その高尾小学校の5、6年生が防災について研修する際に、日赤島根県支部から「災害時の赤十字活動についてのお話」更にみずうみ奉仕団から「避難所での過ごし方の演習」をとの依頼がありました。防災スクールは7月27日、28日の2日間の行事ですが、27日の午後には日赤島根県支部澤田調整監から「災害時の赤十字活動」についての講義がありその後、私たちが「ホットタオルの作り方と使い方」「風呂敷リュックの作り方と使い方」を約30分で説明しました。説明といっても高尾小学校のみんなと一緒に語らいながらです。本当に楽しいひと時でした。早速作った風呂敷リュックを背負って見せてくれましたがとっても可愛い姿でした。

この日は、奥出雲町役場職員の方の説明で避難所の簡易ベッドの組み立てがあり、私たちも一緒に経験させてもらいましたが、最新の防災関連器具の性能の良さに驚きました。

(原田)

慰霊塔清掃し戦没者供養

赤十字の信条でボランティア活動を行う「みずうみ赤十字奉仕団」が9月28日、緑山公園内にある慰霊塔で、松江に拠点を置いた歩兵第63連隊をはじめとする戦没者の慰霊祭を開いた。

奉仕団は1956年の結成後、68年から春と秋の彼岸に、88年からは慰霊祭を秋の行事にしている。

この日は団員と他メンバー18人が参加。善福寺の若槻^{わかづ}月住職の読経に合わせて団員らも経を唱え、合掌した。

(令和2年9月29日付

山陰中央新報より抜粋)

対人地雷廃絶 願いよ届け
ちようちよキャンペーン

松徳学院高校の生徒が2月10日、対人地雷の廃絶キャンペーンに取り組んだ。犠牲者を支援する活動を展開する「みずうみ赤十字奉仕団」のメンバーの手ほどきを受け、チョウの形の紙に対人地雷廃絶を願うメッセージを書き込んだ。

同校の生徒は2008年から、地雷について、同奉仕団に学んでいる。

この日は2年生26人が「オタワ条約に参加してほしい」などとメッセージを書

き込み、それぞれ32枚仕上げた。

(令和3年2月11日付

山陰中央新報より抜粋)

上川紀美子様を偲んで

7月13日 上川名誉委員長の悲報を聞き、しばし呆然とし言葉を失いました。

上川名誉委員長は、お母様と共にみずうみ奉仕団の団員として思いやりの心を持ち奉仕の道に尽くしてこられました。時には委員長として私達団員を厳しく指導して下さいました。

思えば上川名誉委員長とは同じ世代に育ち、昭和、平成とひたすら走りつづけ、令和を迎え余生は穏やかに暮らしたいねと、会えば口癖のように言っていました。

自分に厳しく、理知的で凛とした姿にもうお目にかかれなと思うと寂しさがこみ上げてきます。

今まで本当にありがとうございました。どうぞ安らかに眠りくださいませ。心よりご冥福をお祈りいたします。

(浜田光代)



団員の声

まご誕生

青木 八恵子

令和2年、年明け早々新型コロナウイルスの症例が報告され、瞬く間に世界中に感染拡大した。未知のコロナに恐怖感を抱きながらの生活で、あつという間に一年過ぎた気分がする。関西在住の娘が6月に出産予定だったので、コロナ感染に随分心配した。出産の立合いを予定していたが、仮に感染したら地域の人達に迷惑をかけるので、日帰りでも出掛けるのを躊躇せざるを得なかった。心配していたが無事元気で生まれ、すくすくと育ち、今年初節句を迎えた。便利な時代になり日に日に成長する姿を動画で見ることが出来る。6月の誕生日には、初めて会って抱きしめたいと思う今日この頃です。

予防接種も開発され、ワクチン投与する日も近づいている。一日も早く収束し、心配する事なく日常生活が出来る日を願っています。



コロナ禍の中で

池田 裕子

コロナ感染症が広がりを見せ始めた昨春、楽しみで続けてきたお茶もしばらく休ませていただきました。とはいえ、収束の兆しの見えない中、何もしないのではストレスが溜まり心も萎える、との思いから今は再開しています。

何かと行動に自粛を求められる昨今、お互いに他者を思いやる気持ちを持つて感染症予防対策をし、方法を探り、工夫しながら細々とでも好きな事を続ける、しばらくはそんな日々が続きそうです。一日も早く、安心して暮らせる普通の日常がもどる事を願いつつ。

新型コロナ禍に思う事

太田 志津子

昔の小説や映画の中で、チフスや赤痢が蔓延し多数の死者が出た事は知らされている。まさかこんな事がテレビで毎日写し出されるとは思っても見ませんでした。

自粛生活を守り、手帳に予定の記入はなくなり、コロナのせいにして怠惰な生活に陥っています。

この文を書きながら反省し、ちょっと見直さなくてはと、思い付かせていただきました。

本当にありがとうございます。

コロナ収束と平和への願い

大塚 良子

2020コロナ禍の中、義兄の死・弟の三回忌・姪の子供達の結婚と冠婚葬祭が重なりステイホームの日常に悲喜こもごも有り特別な年になりました。コロナ禍早期収束を祈ります。

核兵器禁止条約が1月22日発効のニュースに被爆から75年の長い過程で被爆者の方々の尽力に心より敬意の拍手をいたしました。唯一被爆国日本の批准を切に願う思いです。

寒の水

織部 弥生

明治生まれの祖母が、「寒の水は風邪の予防になる」と言って毎朝水を飲んでいました。孫達も無理に飲まされました。凍てつく朝冷たい水を飲むのは苦痛だったけれど、だんだん慣れて少しずつ飲むようになりました。空気が乾燥する寒中、理に叶っていると思います。祖母が亡くなった年齢以上になった今も、たまに思いついて飲みます。ここ数十年来、全然風邪を引かないのは寒の水のお蔭かなと思います。寒の水が新型コロナにも効いてほしいと思うけれど、関係ありませんね。



コロナで明け暮れた一年

梶 啓子

昨年(2020年)は、新型コロナウイルス感染症の拡大に振り回された年であり、いまだ収束の気配が見えないまま、感染者は増える一方です。

そういう中で高齢者の私は特に予防対策の基本を順守する心掛けを持って生活していますが、心配する一つとして孤独感に浸り周囲との接触が欠けてだんだんと淋しさを感じる様な気がしますので、今はその解決策に努力しています。

早く収束して平穏な生活に戻ることを願うばかりです。

私は今

鐘 築 サカエ

普通が、日常が、如何に有難い事か七十余年生きてきてこんなに実感した事はありません。親はいつまでも生きててくれると思っていた子供時代のそれとも違うこの戦々恐々としたコロナ禍。目に見えぬ先の見えぬものとの戦いに一生懸命立ち向かっています。昨春小学入学の女孫が入学式だけで休校。登校するようになってからも一日中マスクの生活!!『もう慣れたよ』と笑ってみせる孫。当たり前になったマスク生活も、大正時代背景の物語『鬼滅の刃』の布地『麻の葉』『市松』『亀甲』柄のマスクを日々替えて楽

しんでいる。手洗いうがいも自然にしている。子供は順応性があり強い!!と嘆く事を止めました。ただ私の県外の里方面に大正12年生まれの伯母が二人居て、毎年二回帰省し逢えていたのが出来ず悶々としています。一番の願いは、『私がクラストーになつてはならぬ』との思いで地域の福祉推進員、公民館活動等すっぱり高齢者の私も、細心の気遣いで生活しています。来年になってコロナの時はあだったこうだったと思い出話になる事を願っています。普通が当たり前ではないと、一日一日を大切に思う今日この頃です。



新型コロナウイルスで、パンデミックが宣言されました

佐藤 信子

新型コロナウイルスで世界中の誰もが感染の危険にさらされている今、一人から私に出来る事に気付きました。不安や恐怖で自制心を失いかけたり、パニックになりかけた時、一番簡単な対処法は、深呼吸です。私達の身体は意識しなくても、自律神経が無意識に働き、喜べる言葉を発せる生きものである事を。不安や恐怖の心から解放するためには、エネルギーを「感謝や、人が喜び、自分も喜ぶと言われるプラス心に向けることです。」

コロナ禍に思う

浜田 光代

新型コロナウイルス感染防止のため、政府により新しい生活様式が発表され、外出が思うようにならない日々、長い期間家に閉じこもっているのも良くなく、私は一日一回知らない町を散歩することに心掛けましたが、町の中はいつもと違い静かで振り返っても誰もいない、少々不安になり急いで後もどり。

そこで、家の中で好きな手仕事、読書、写真の整理等に切り替え、それだけでも気分もさわやか、小さな喜びを感じ明るい気持ちで過ごしました。

先の見えない状況に自分も感染するのではないかと不安や心配もありましたが、毎日報道される医療現場を見るにつけ、命がけで闘う関係者の方々に頑張つてと祈る思いでした。

そんなコロナウイルスももうしばらく続くようですが、気をゆるめずひとりひとりの行動が命を守り、皆を救うと心にとめ私も頑張っています。一日も早く終息し延期となっている東京オリンピック、パラリンピックの開催を待ち望んでいます。

今、振り返って見ると、自粛生活もゆつたりとした気持ちで過ごすことができ、良かったと思います。



白寿の母を思う

松本 淑子

未だに収束が見えないコロナ感染に不安を覚えると同時に施設で過ごす母親はどうしているかしらと気を揉んでいます。

老齡の母は4年前に施設に入居しました。コロナが発生するまではほぼ毎日会っていたのに、島根県でコロナ感染が報じられる度に面会できなくなり、私と話すが何よりの認知予防になると信じていただけにとても残念です。

加えて今年始め、大腿骨骨折・手術・入院というアクシデントに見舞われ、病院でも面会かなわず心配が増すばかりでした。

後日退院し、顔を合わせた途端、嬉しいことに私のことを覚えていてくれました。もう直、百歳の誕生日を迎えます。これまでお世話になった方々に感謝の気持ちで一杯です。

雑感

山内 祐子

今冬は、温暖でわりと過ごし易かったような気がする。

私は、家の中でじっとしているより、戸外に出て、土いじりや草花を愛でたりする方が好きである。だから家事や繕いものなど、手抜きすることが多く簡単ですましてしまう。そのような雑な性分であり、今更ながら、反省する次第である。

余命いくばくかの人生、わずかでも、ポジティブな生き方をしなければと思う此の頃である。

コロナこの一年

大和 友子

先ずこの一年程、当り前の事が当り前に出来ることが、いかに有難いことであったか、つくづく思い知らされました。公民館活動がお休みになったり、俳句教室が先生の添削だけになったことはありましたが、現在ではほほいつも通りになっています。私はステイホームは苦にはありませんが、早くコロナの心配のない、何気ない日常の生活にもどって欲しいと願っています。

はじめまして

松本 成

新入団員です。よろしく申し上げます。今年度参加した活動は、9月に松江市内の緑山公園にある松江六三連隊の慰霊塔周辺の清掃と戦没者供養です。改めて過去の戦争の悲惨さを思い、これからも平和な世が続く事を願いました。

もう一つは、世界中から地雷が無くなるように、オタワ条約未参加国に参加を呼びかけるちようちよキャンペーン活動です。

これからも出来る限り活動に参加したいと思います。

【新入団員紹介】

*松本 成さん 令和2年6月1日入団
*丸山祐子さん 令和2年11月24日入団

古布ふきんづくりと施設訪問

10月28日、9名でいつものように古布を持ち寄り和気あいあいと話し合いながら、丁寧なふきんを作りました。

ダンボール8箱に詰めて2箱ずつ4施設に寄贈しました。ケアセンター咲花・厚生センター・長命園・詔光の里へ5名で訪問し、いずれの施設でも大変喜んでいただきました。

ちようちよキャンペーン集計

団員の作成したちようちよと松徳学院高校の生徒さん、また団員の呼びかけで協力してくださった方々のちようちよを3月8日に国別に集計、合計2238枚をリズムネットワーク事務局(兵庫県)に送りしました。事務局で取りまとめ、地雷廃絶を願って各国大使館へ届けられます。

東日本大震災から

10年プロジェクト

「オンライン語り部LEEVE」

3月24日、日赤島根県支部で赤十字奉仕団対象の「被災者に寄り添い、震災を風化させないための事業」の取り組みに4名参加しました。

* 2020年度事業報告 *

1. 総会

6月1日 コロナ禍により文書審議

2. 高尾小学校防災スクール

7月27日 奥出雲町高尾小学校
参加4名

3. 災害義援金贈呈

7月27日 参加4名 2万円贈呈

4. 戦争犠牲者慰霊塔清掃、供養

9月28日 緑山公園 参加18名
(団員7名、日赤賛助会員4名、一般7名)

5. 日本赤十字社島根県支部

赤十字奉仕団委員長協議会

10月14日 日本赤十字社島根県支部
参加1名

6. 古布ふきんづくり

10月28日 日本赤十字社島根県支部
参加9名

7. NHK 歳末・海外助け合い

オープニングセレモニー

12月1日 NHK 松江放送局
参加2名 1万円贈呈

8. 児童福祉施設支援金贈呈(13施設)

12月25日 日本赤十字社島根県支部
参加5名 121,000円贈呈

9. 松徳学院高校生とのふれあい交流会

2月10日 松徳学院高校
参加 団員3名 生徒26名
ちょうちょキャンペーンの説明、
ちょうちょづくり指導

10. 高齢者施設訪問(古布ふきん持参)

2月24日 4施設 参加5名

11. ちょうちょキャンペーン

12月~2月 団員に作成依頼
3月8日 取りまとめ 参加2名

12. 3.11 東日本大震災義援金贈呈

3月22日 参加5名 1万円贈呈

* 年間事業 *

1. 松江赤十字病院ボランティア

(令和2年度は休止)

2. 松江赤十字乳児院ボランティア

(令和2年度は休止)

3. 赤十字会員加入、会費募集

4. 特別支援金、救援金贈呈

5. 情報誌「ザ レッドクロス みずうみ」刊行

6. 役員会(令和2年度はコロナ禍により9月14日のみ)



あとがき

「新型コロナウイルス」の社会生活への影響やコロナ禍の中での集中豪雨による災害など、心が重くなるようなこの一年ではありましたが、ワクワクン接種など明るい話題がはじめて、少しは心が軽くなった春となりました。

コロナ禍によりみずうみ奉仕団も大きな影響を受けました。総会も役員会も計画通り実施できず、その他の活動も多くが中止となる事態となりました。そのようなかでも、規模を縮小し十分な感染症対策をした上で、高尾小学校児童や松徳学院高等学校生徒との交流が実行できたことは大変嬉しいことでした。今号では、その活動の様子を団員の皆様に写真でお届けいたします。

又、団員の方々に近況などについてたくさんの方の寄稿をいただき、編集委員一同大変感謝しております。

今年こそウイルスも災害もない穏やかな日常が過ごせますよう祈るばかりです。
(原田)

ザレッドクロスみずうみ第四十八号

令和三年三月三十一日発行

発行者 松江市内中原町四十番地

日本赤十字社島根県支部内

+ みずうみ赤十字奉仕団

委員長 松本 淑子

☎ (〇八五二)二一四二三七

編集委員 ◎松本 淑子・浜田 光代

原田美智子・池田 裕子

福田 健也

印刷所 有限会社江陽印刷

☎ (〇八五三)六二一三一七八